

「仙台版防災教育副読本を活用した指導事例」

<p>学校名 [北六番小丁学校] 氏名 [國井 美紅] No.3 [小] 学校 [平成28] 年版 第2学年 単元名 [自分地図をつくろう！ (もつとなかよし まちたんけん)] P 32～33 教科・領域名 [生活科] [2/6時間]</p>	
<p>主な学習活動 (実際に行った活動)</p>	<p>指導の実際</p>
<p>【ねらい】 通学路で地震発生時に安全なところ・助けてもらえるところを発表し合い、理解を深める。</p> <p>1 通学路で見つけた地震が発生したときに、安全な場所や助けてもらえる場所を発表し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>実際に通学路を歩いてみて見つけた、地震が起きたときに安全なところやたすけてもらえるところを発表しましょう。</p> </div> <p>(児童の主な反応) 公園 歩道で広がっているところ 福沢市民センター(補助避難所) 児童館 東照宮(灯籠からは離れる) 宮町交番 こども110番の家 自分の知り合いの方の家 等</p> <p>2 安全な場所で働いている方を想起する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>みんなが見つけた安全なところ・助けてもらえるところにはどのような方がいらっしゃいますか。</p> </div> <p>近所の顔見知りの大人 福沢市民センターの職員 児童館の先生 東照宮の宮司さん 宮町交番のおまわりさん 子ども110番の家の方 子ども110番の店の店員さん</p> <p>3 これまで確認した情報を整理するために、「自分地図」にまとめることを提案し、自分地図作成の意欲付けをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">  </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>てらぼん 交番</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>指定避難所 Designated Refuge Area 坂丘小学校 Sakaguchi Elementary School ひなんじよのかんぼん</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>こども 110番の家</p> </div> </div> <p>○副読本の写真カードや実際の地域の写真を提示して確認したり、まとめたりする。</p> <p>○自分たちの生活する地域は、地震や大雨・台風が発生したときには危険な場所となるところもあること、またその場合でも安全な場所が整備されていることを確認して、安心して学習できるようにする。</p> <p>○安全な場所で働いている人と顔見知りになっておくことの大切さに気付かせる。</p> <p>○これまでのまちたんけんや地域連携の授業、日常生活の中で交流のある人々を想起させる。(写真提示)</p> <p>○3年生の「防災マップを作ろう」(総合)では「共通の学区地図」を、2年生の「自分地図をつくろう！」(生活科)では、「自分なりに作り、描く自分地図」を発達段階に応じて作成した。</p> <p>○昨年度までの自分地図の例を示して、どのような地図か理解させ、意欲を高める。</p> <p>○3月11日の前日10日(金)に保護者へのお便りで、震災から6年目を迎えるに当たって志を新たに防災教育の継続を行っていくことを伝え、自分地図作りへの協力を呼びかける。</p>